

平成30年度 全国学力・学習状況調査結果の概要について

はじめに

平成19年度より実施されている「全国学力・学習状況調査」は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における生徒への指導の充実や学習状況の改善に役立てることを目的としています。

生徒の確かな学力・豊かな人間性・たくましい心身の育成には、学校と地域・家庭との連携が不可欠です。保護者におかれましては、今回の公表を通して、さらに教育への関心を高めていただく一つの機会となることを願っております。今後とも本校の教育に変わらぬご理解とご支援をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

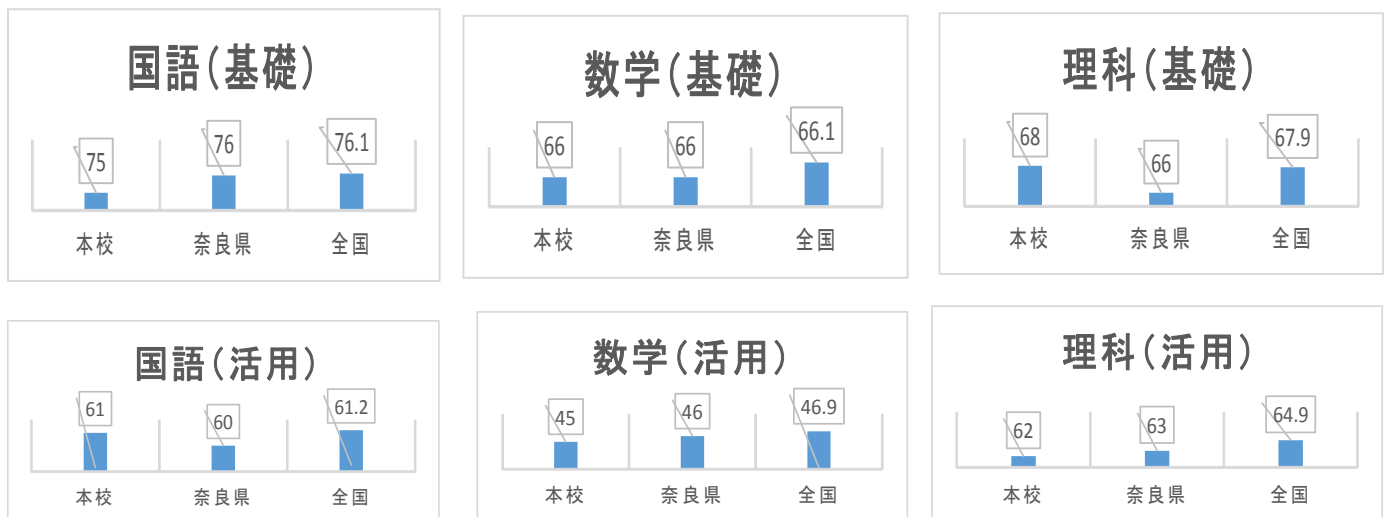
式下中学校 校長 木寅雅史

1. 調査の概要

- (1) 実施日 平成30年4月17日(火)
- (2) 調査対象 川西町・三宅町式下中学校組合立式下中学校3年生(105人)
- (3) 調査内容 <教科に関する調査：国語・数学・理科>
<質問紙調査：学習意欲・学習方法・学習環境・生活の諸側面などに関する調査>

2. 各教科の平均正答率

A問題は、基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題、B問題は、基礎的・基本的な知識・技能を活用することができているかどうかをみる問題が出題されています。本年度においては、県平均との比較において-1ポイント～+1ポイントの範囲にあります。



3. 各教科の領域等の状況について

【国語】

- ・国語の正答率は、〈基礎〉校内平均正答率(75ポイント) - 奈良県平均正答率(76ポイント) = -1ポイントです。〈活用〉校内平均正答率(61ポイント) - 奈良県平均正答率(60ポイント) = +1ポイントです。問題の内容別正答率をみると、「短答式、書くこと」に若干の課題があります。
- ・内容別正答率は、県の平均と比べて-2.4ポイントから+4.4ポイントの範囲です。また、活用問題では、全て県を上回る正答率です。
- ・具体的に解答率が低かったものとして、次のような問題があげられます。
 - ①伝えたい事実や事柄が相手にわかりやすく伝わるように書く。A(2二)
 - ②書いた文章を読み返し、伝えたい内容が十分に表されているか検討する。A(4一)
 - ③文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える。A(5二)
 - ④「舞台のマク」「先制点をユルす」などの漢字を正確に楷書で書く。A(8-2, 3)

【数学】

- ・数学の正答率は、〈基礎〉校内平均正答率(66ポイント) - 奈良県平均正答率(66ポイント) = 0ポイントです。〈活用〉校内平均正答率(45ポイント) - 奈良県平均正答率(46ポイント) = -1ポイントです。問題の内容別正答率をみると、「資料の活用」と「図形」「関数」に課題があります。
- ・内容別正答率は、県の平均より-4.7ポイントから+2.7ポイントの範囲です。

・具体的に解答率が低かったものとして、次のような問題があげられます。

①グラフから、Xの変域に対するYの変域を求める。A (9 (2))

②事象を数学的に解釈し、解決方法を説明することができる。B (3 (3))

③付加された条件の下で、新たな事柄を見出し、説明することができる。B (4 (3))

【理科】

・理科の正答率は、〈基礎〉校内平均正答率 (68ポイント) - 奈良県平均正答率 (66ポイント) = +2ポイントです。〈活用〉校内平均正答率 (62ポイント) - 奈良県平均正答率 (63ポイント) = -1ポイントです。問題の内容別正答率をみると、「自然現象への関心・意欲・態度」と「記述式」に課題があります。

・内容別正答率は、県の平均より-3.5ポイントから+0.9ポイントの範囲です。

・具体的に解答率が低かったものとして、次のような問題があげられます。

①問題解決の知識・技能を活用することができるかどうかをみる。(9 (2))

②探求の過程を振り返り、新たな疑問をもち問題を見だし探求を深めようとしている。(8 (3))

③化学変化と熱についての知識を活用できるかどうかをみる。(8 (1))

④オームの法則等の公式を用いて、値を求めることができる。(6 (2))

4. 生徒質問紙調査より

【教科に関する学習状況調査から】

・「数学の授業の内容はよく分かりますか」は、75.2 %で、「理科の授業はよく分かりますか」は、80.9 %です。

・「数学の勉強の大切さ」の理解 (81.0 %) や「理科の勉強の大切さ」の理解 (69.5 %) です。

・「数学・理科の授業で学習したことを普段の生活に活用できないか考えますか」(数学 23.8%,理科 32.3%)は、低い率です。授業を通して、学んだことを活用できる意識の醸成を図ります。

【その他の学習状況調査から】

・学校が楽しい場であるよう教育活動を続けます。

・「自分には良いところがあると思いますか」は、73.5%の傾向です。自尊感情・自認感情は様々な活動の土台になります。より成功体験や達成感を感じられる取組を学校生活全般で進めます。

・「人の役にたつ人間になりたいと思いますか」(92.4 %) も5年連続で高い率です。今後も自己有用感や他者を大切に思う気持ちを醸成できる学習・事業やボランティア活動を実践します。

・「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」(94.2 %) も高い率です。いじめや不合理矛盾や差別を許さない教科・人権学習の推進を行います。

・「将来の夢や希望を持っていますか」は、63.8 %です。去年の生徒と同様のポイントです。「夢と希望の式下中学校」をより具現化していけるように、授業や学校行事等を工夫していきたいと考えます。

・「学校の規則を守っていますか」は 84.8 %です。規範意識の高さがうかがえます。友達・自分・学校を大事に思える学習を追求します。

【家庭学習や地域に関する設問より】

・時間を決めて予習・復習を計画的に進めることや勉強の計画性が低く、平日の携帯・スマホの使用時間が多い傾向です。シラバスなどのさらなる活用等具体的な家庭学習の取組方法について継続的な指導を行います。ご家庭での指導もよろしく願います。

・自分の住んでいる地域の行事への参加率や地域や社会で起こっている問題や出来事に関心があるのは、県より 11.8 ~ 18.5 ポイント高い傾向です。吹奏楽部やボランティア部の地域行事への参加は増えてきましたが、今後も PTCA 連携活動の検討・推進を図ります。* C:コミュニティー (地域社会)

5. 学力向上に向けた今後の方向性について

・授業について、授業の目的 (めあてやねらい) を明確にするとともに学習の振り返りができる手段を講じます。規律ある授業で分かりやすい授業づくりを、教職員が研修して実践します。

・何よりも規律ある授業を大切にしていきます。また、授業にディスカッション、スピーチ、グループ学習等の手法を取り入れます。

・「授業が分かりたい」から「分かった」、「分かった」から「その教科が好きだ」の好転的なスパイラルを目指します。

・教科の基礎と基本の力の充実のための反復練習を充実します。小テストや単元確認テストを利用したスモールステップで達成感や満足感をもたせる取組を推進します。

・学習の定着を図るためには、学校教育と家庭学習の連携が重要です。予習、授業、復習のサイクルを定着させて学びの向上を図ります。

・中学校に入ってから不安を児童・生徒が感じないようにするために、小中連携を大事にした取組 (例えば部活動体験や授業交流等) を推進します。